

骨子案作成に当たっての意見等のまとめ（審議会委員）

質問	意見等
<p>1 小平市の環境について、何が課題だと思われませんか。</p>	<p>多くの課題に取り組まなければなりません、次の3つのテーマに集約されたいと考えます。 これらは重点的に推進していく必要性があり相互に連携・関連性を持って進める事がポイントになると思います。</p> <p>① 地球温暖化対策(太陽光発電・燃料電池・蓄電池の普及等創エネの利用と補助) ② 気候変動による各種の災害対策(大雨による浸水、強風、竜巻雷、酷暑猛暑による健康被害など) ③ グリーンインフラの整備(緑化の取組を軸に自然環境の維持と活用を図り生物の多様性を訴えること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小平市の緑被率の低下。低下させないための施策が不十分。また目標の設定がない？ ・小学校での環境・生物多様性教育(出前授業)が一部を除き不十分。 ・環境学習のリーダーの人員と育成不足。早急に対応策をたてるべき。 ・民間団体との情報交換や支援が不足している。 ・小平市の最も重要な生物多様性のホットスポットと思われる玉川上水の動植物の生態調査を行っていない。 <p>小平市地域エネルギービジョンにおいて、全体では目標を達成しています。但し、増減率が運輸部門：△40.6%、産業部門：△72.6%、業務部門：17.7%、家庭部門：△13.2%となっています。大規模事業者は東京都環境確保条例で削減義務が有りますが、エネルギー消費量全体の44.9%を占める家庭部門、27.4%を占める業務部門の削減が必要と思われま。</p> <p>小平市は江戸時代の新田開発が現在の自然的な特徴を形成し、大きな魅力となっていると思います。このため、例えば西多摩、狭山丘陵、多摩丘陵などを持つ他の自治体とは違う、屋敷林や農地、水路こそが小平市の良さなのだろうと思います。時代の変化(生活・経済の変化)によって屋敷林や農地、水路の魅力が維持できなくなりつつある現状には危機感を感じます。小平市民、小平市内の経済圏のみでこれらを維持、活用するのは大変だと思えますが、都民全体、インバウンドなどを含めて考えた場合、小平市の屋敷林や農地、水路は代えがたい自然資産であり、もっと高度利用できるのではないかと考えます。</p> <p>海外では自然体験などの「コト消費」で対価を得て、保全活動などに還元する例が多く見られています。小平市の自然資産を活用して市外から人を呼び寄せ、対価を得て、より良い自然に繋げていくような好循環が生まれてくれば良いと思います。</p>
<p>2 次期計画は、どのような施策体系が望ましいと思われませんか。</p>	<p>小平市長期総合計画を大前提に小平の実情を踏まえたうえで国や都の計画や策定などとの整合性ある体系としたい。 環境問題はひとつの市や地域で完結しないことが大半なので他自治体との計画に協力・共同・協働可能なものとしてほしい。具体的には現在の第二次環境基本計画にあるものをベースに</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球環境として温暖化計画、気候変動対応策、食品ロス削減推進、プラスチックごみ対策など ○自然環境にグリーンインフラ整備と活用、生物多様性地域戦略を加える ○都市環境と生活環境は相互に関連性があるので1項目に整理する ○参加と共働(エコダイヤ計画はこれを推進するエンジン役として組み入れる)は従来通りの策を充実強化していくことに加え関連自治体との共同研究や共同調査などができる施策体系を図っていければ今後の有効策になると思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動対策と生物多様性地域戦略を早期に作成してほしい。作成前は重点施策としてほしい。 ・玉川上水は東京都水道局が管理していますが、小平市で最も豊かな生物多様性のホットスポットです。多くの市民が散策や観察を楽しむ場所です。動植物の生態調査や保全・観察会などの実施場所として加えてほしい。 <p>前回の環境審議会 資料1-⑤で示された、第二次環境計画の施策体系を元にした体系で良いと思われま。気候変動適応策を盛り込むことは、今後必要不可欠になるので必要と思われま。また、循環型社会の形成は、東京都の政策2“3R・適正処理の推進と「持続可能な資源の利用」に対応するために基本項目としての位置付けが良いと思われま。生物多様性については、現在の基本目標「自然環境」に対応した位置付けが良いと思われま。</p> <p>審議会でも議論になっていた通り、異なる環境課題に対して、複合的に貢献しうるような具体的な施策を立てていくことが今後はますます重要になってくると考えま。例えば、エネルギービジョンの重点プロジェクトに挙げられていた「苗木の配布」についても、樹種、入手元、移植生態系の特徴、定着・成長率、などを合わせて支援、評価していくことで生物多様性保全の面でも貢献しうるプロジェクトになっていくかと思われま。</p> <p>資料1-⑤「施策の体系」では、「自然環境」の欄に『「生物多様性地域戦略」を組み込む』と書かれていますが、根拠法令である生物多様性基本法は、「豊かな生物多様性を保全し、その恵沢を将来にわたって享受できる自然と共生する社会を実現し、地球環境の保全に寄与すること」を目的としています。つまり、豊かな自然を守り、多様な生き物が生息できる環境を保全することだけではなく、農地や雑木林、用水路など、人の生活と密接にかかわる自然資源の利用や、人と自然との関わり(経済活動を含む)全般が対象です。自然が市民生活に貢献する様々な効能を市民に分かりやすく示すことで、人と自然のかかわりを再認識して頂けるような体系として頂けるとありがたいです。</p> <p>小平市から農地や雑木林、用水路がなくなり、すべて人工物となった状況と対比して頂くことで自然の価値を再定義できるのではないのでしょうか。小平市民にとっての自然の現在価値を定義することができれば、市民が共有する目標や行政の取組なども定まってくると思われま。</p>

<p>3 現時点で、次期計画に盛り込むべき目標や取組など、何かお考えがありますか。</p>	<p>地球環境と自然環境を中心に従来の重点施策に次の諸施策を計画検討できたらと考えます。</p> <p>○地球環境——創エネとして太陽光発電補助率アップ・蓄電池設置補助(法人施設含む)・電気自動車推進(V2H)と充電設備助成・ZEH住宅支援・LED補助・浸水対策としての雨水貯留タンク補助・プラスチックごみ削減対策・下水熱利用の検討・食品ロス削減法に基づく計画作成とフードバンクやフードドライブ活用や「もったいない活動」実践活動チームの結成や関連イベント事業の普及推進</p> <p>○自然環境——生物多様性地域戦略策定のための関連自治体との共同研究や調査・害獣駆除対策強化(苦情や実害の大きいハクビシン・アライグマ・スズメバチ)・ホテル事業の充実と後継者育成策・緑化率増加推進手法の検討・森林環境贈与税の活用によるグリーンインフラ整備(特にグリーンロードを南北に結ぶアカシア通りは全庁横断的な組織による見直しや整備)</p> <p>○参加と共働—環境学習の強化策としてごみ処理施設や下水施設などを活用する定期的恒常的社会科見学会の実施・エコスクール制度による認定校取得とこれによる環境学習推進・SDGsに基づくエシカル消費行動の具体的な環境案内手引書の作成とその普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民が参加できる施策として環境フェスティバルの参加団体や支援の拡充をしてほしい。 ・気候変動対策と生物多様性保全のために屋敷林、用水や用水沿いの林、畑や雑木林などを残す施策を強めてほしい。 ・個人の家屋、団地やマンションなどの周囲は生垣にすること。補助も拡充してほしい。 <p>現在の「小平市地域エネルギービジョン」はエネルギー消費量をR2(2020)年度にH17(2005)年度比25%以上削減となっておりますが、東京都では2030年までに温室効果ガスの排出量を2000年比30%削減となっておりますので、これを受けた計画の策定が必要ではないでしょうか(既に小平市では2005年比ですが33.2%削減しているので問題では無いと思われませんが)。また、気候変動適応策については、前回の審議会では台風15号の後ということもあり、防災を検討する意見が有りましたが、例えば小平市としての気候変動影響を検討しそのリスクから重点実施項目を決定しては如何でしょうか。</p> <p>生物多様性地域戦略に関して、都市部では外来種管理の問題がますます重要になってくると感じています。また、個人的には、玉川上水沿いの草原性植物の残存状況に焦点を当てた、草原(的環境)の保全・再生にぜひ取り組んでいただけると嬉しいです。(雑木林だけでなく、半自然草原も武蔵野台地の里山の生物多様性を特徴付ける重要な生態系の1つです。)</p>
<p>4 自由意見</p>	<p>今後の研究課題として</p> <p>○スマート街灯設置の検討——LED設置や通信機能による一元管理の省エネ、カメラ設置による防犯、デジタルサイネージによる商店街支援など多機能型街路灯の活用(プライバシー問題の課題解決策がポイント)</p> <p>以上、環境問題解決のための多種多様な施策の中でも小平市地域として想定される自然災害に影響を及ぼすものは優先的事項として第三次環境基本計画に組入れ積極的に取り組んでいただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年は生物多様性国家戦略の最終年にあたります。残念なことに人間活動による影響が主な要因でたくさんの生き物たちが危機に瀕しています。開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少、里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下、地球温暖化による影響、外来種による生態系のかく乱などが主な要因と言われます。2021年は次期戦略の策定が行われます。国や自治体だけでなく市民ひとりひとりが真剣に考え、実現に向けて行動すべき時です。 ・大型台風による甚大な被害や長期間の猛暑など異常な気候変動が頻発しています。CO2の削減や樹木や植物、生き物を保全することが今まで以上に必要とされています。 <p>小平市下水道プランについて(施策Ⅱ-1 浸水対策)</p> <p>1時間あたり50mmの降雨に対応できる雨水管きょ整備を行う。</p> <p>→小平市ハザードマップより、あまり浸水被害の心配がないように思われるが、今後さらに頻発する恐れのある「ゲリラ豪雨」への適応として、床上浸水の恐れのある地域だけでも、1時間あたり100mmの降水に対応できる雨水管きょが整備できるのであれば、そちらに変更するのはどうか。</p> <p>「小平市のみどりに関するアンケート」の中の生物多様性の認知度に関する質問の仕方についてですが、下記のような聞き方はいかがでしょうか。</p> <p>問25 生物多様性について、その言葉や意味を知っていますか？</p> <p>※生物多様性とは、遺伝子・種・生態系の3つのレベルでの多様性のことであり、私たちの暮らしは、生物多様性からさまざまな恵みを受け、成り立っている。</p> <p>余談ですが、区部で子育てをする一人の親として、野菜の種まきから収穫、料理作りなどの農業体験はとても高い価値があると感じます。同様に、雑木林は虫探しなどの場として高い価値があると思います(都心部では公園以外にそのような場がない上、虫取りができるようになっていなかったり、そもそもバツアすらいない)。</p> <p>小平市の自然資産は、区部では今後も持ち得ない価値のあるものだと思いますので、区部化するのではなく小平らしく発展して頂きたいなと思います。</p>